

カキの栽培・防除暦（令和7年版）

鹿児島県園芸振興協議会始良支部（果樹部門）

月	旬	生育相	管理作業	対象病虫害	基幹防除	100g 当たり 薬量	補完防除及び注意事項	散布日・散布量 記入欄 （基幹防除）
					FRACコード(殺菌剤) IRACコード(殺虫剤)			
1		休眠期	整枝・せん定	◎切り口及び傷口のゆ合 促進	トップジンMペースト 1 原液塗布 （せん定整枝時） ※1cm以上の切り口には必ず塗布する		※せん定と併せて粗皮削り、り病枝の切除を行 う	月 日 記
2								
3	中	発芽前	防霜対策					
4	中 下	新梢伸長期	晩霜対策 摘蕾	◎炭疽病, 落葉病	デランフロアブル M9 2,000倍	50cc	※炭疽病, 落葉病の初期防除を徹底する	月 日 記
5	上	開花直前	芽かき	◎炭疽病, 灰色かび病 ◎カキノヘタムシガ, アザミウマ類, カイガラムシ類	ゲッター水和剤 10,1 1,000倍 モスピラン顆粒水溶剤 4A 4,000倍	100g	※花がらをよく落とす	月 日 記
	中 下	落花期	夏季せん定			25g		
6	上	生理落果	排水対策	◎炭疽病 ◎フジコナカイガラムシ, カキノヘタムシガ, イラガ類	ジマンダイセン水和剤 M3 500倍 （収穫45日前まで） スミチオン水和剤40 1B 1,000倍 （収穫30日前まで）	200g		月 日 記
	中		夏季せん定			100g		
7	上		摘果 灌水	◎炭疽病 ◎カイガラムシ類, カキノヘタムシガ, ハマキムシ類	ジマンダイセン水和剤 M3 500倍 （収穫45日前まで） オリオン水和剤40 1A 1,000倍 （収穫21日前まで）	200g	※炭疽病罹病枝は放置すると、果実への発生 が多くなるため、見つけ次第除去し、園外へ 持ち出す	月 日 記
	中					100g		
8	下	果実肥大期	台風対策	◎炭疽病, 落葉病	アミスター10フロアブル 11 1,000倍 （収穫7日前まで） ※台風後は炭疽病の発生が増加するの で、必ず防除を行うとともに、カメムシ類 の発生に注意する。	100cc	※土壌が乾燥したらかん水する ○カメムシ類 アクタラ顆粒水溶剤 4A 2,000倍 （収穫3日前まで） スタークル顆粒水溶剤 4A 2,000倍 （収穫前日まで） 【収穫直前の多発時】 アグロスリン水和剤 3A 2,000倍 （収穫前日まで） モスピラン顆粒水溶剤 4A 2,000倍 （収穫前日まで）	月 日 記
9				◎炭疽病, 落葉病	オーソサイド水和剤80 M4 1,000倍 （収穫7日前まで）	100g		月 日 記
10		収穫期	秋肥（早生・普通）	◎落葉病	デランフロアブル(収穫後) M9 2,000倍	50cc		月 日 記
11								
12		休眠期		◎カイガラムシ類	ハーベストオイル UNM 50倍	2%	※落ち葉、せん定枝は園外に持ち出し処分する	月 日 記

注1)生育期に乳剤を散布すると薬害がでやすいので、乳剤は使用しない

注2)この防除暦は令和6年12月11日現在の登録内容を掲載したものです(※農薬使用時期・使用回数等については、別紙参照)

【施肥基準例】 みかん秋ライト（13-9-8）（15kg袋）の場合 （10a当たり）

時期		生産量1.0t	生産量2.0t
春肥	2月下旬	1袋	2袋
秋肥	10月下旬	4袋	5袋
	11月中旬	2袋	3袋

注)早生種の初秋肥は収穫直後に施用する

※堆肥は完熟堆肥で牛ふん堆肥の場合2t/10a程度施用する

農薬登録内容が変更されている場合があるので、農薬使用前
に表示ラベルを熟読してください！

◎農薬の安全使用基準を遵守するとともに、生産履歴の記帳を行いましょう！

◎農薬散布時は飛散防止に努めましょう！